

製品名: Cdk2/Cdc2 (リン酸化 Thr160) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04434**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	34kDa

抗原情報

遺伝子名	CDK2
別名	CDK2; CDKN2; Cyclin-dependent kinase 2; Cell division protein kinase 2; p33 protein kinase
遺伝子 ID	1017.0
SwissProt ID	P24941
免疫原	ヒト Cdk2/Cdc2 のリン酸化部位（リン酸化 Thr160）周辺の合成リン酸化ペプチド

背景

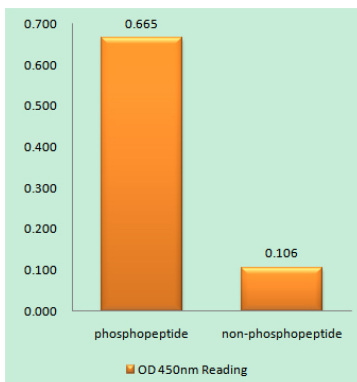
サイクリン依存性キナーゼ 2 (CDK2) ホモサピエンス この遺伝子は、細胞周期制御に関与するセリン / スレオニンプロテインキナーゼファミリーの一員をコードしています。コードされているタンパク質は、細胞周期の進行を制御するサイクリン依存性プロテイン

キナーゼ複合体の触媒サブユニットです。このタンパク質の活性は、G1期からS期への移行期において特に重要です。このタンパク質は、サイクリンAまたはE、CDK阻害剤 p21Cip1 (CDKN1A)、p27Kip1 (CDKN1B) など、複合体の他のサブユニットと会合し、制御を受けます。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。 [RefSeq 提供、2014年3月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。 ,酵素調節: Thr-14またはTyr-15のリン酸化は酵素を不活性化し、Thr-160のリン酸化は酵素を活性化します。 ,機能: 細胞周期の制御に関与します。サイクリンA、B1、B3、D、またはEと相互作用します。CDK2の活性はS期およびG2期に最大になります。 ,類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。 ,類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CMGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。CDC2/CDKX サブファミリー。 ,類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。 ,サブユニット: CABLES1、CCNA1、およびCCNE1との複合体として存在します。CABLES1と相互作用します(類似性による)。UHRF2と相互作用する。UHRF2、CDK2、CCNE1からなる複合体の一部である。Speedy/Ringo タンパク質であるSPDYAおよびSPDYCと相互作用する。SPDYAとCDKN1B/KIP1の両方との複合体に存在する。

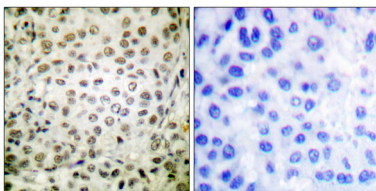
研究分野

Cell_Cycle_G1S;Cell_Cycle_G2M_DNA;卵母細胞減数分裂;p53;プロゲステロン媒介卵母細胞成熟;がんにおける経路;前立腺がん;小細胞肺がん;

画像データ



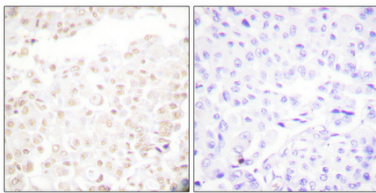
CDK2/CDC2 (リン酸化 Thr160) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



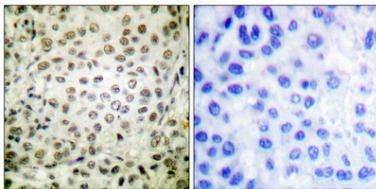
CDK2/CDC2 (リン酸化 Thr160) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。右の写真は CDK2/CDC2 (リン酸化 Thr160) ペプチドでブロッキングした画像です。



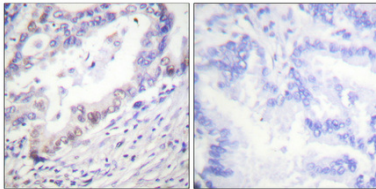
リン酸化Cdk2/Cdc2 (T160) ポリクローナル抗体を 1: 500 に希釈して、様々な細胞をウェスタンブロット解析した。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。